資料１

第１回廃棄物専門委員会における委員発言項目等

委員名	発　言　項　目　等	計画等における対応案	本文掲載箇所
中村委員	・産廃の削減と経済活動の関係性は記載方法に考慮。	第４章（産業廃棄物のリデュース）で記載。	P50
磯貝委員	・今後デジタル化がキーポイント。産業労働部のＤＸ戦略などの視点を考慮。	第６章の長期的な視点に記載を検討。	
浅利委員	・少子高齢化に伴う廃棄物の課題、自助公助の仕組みの維持など、最新の状況を取り入れて。	第５章で高齢者のごみ出し支援について記載を検討。	
	・県と市町村との連携が大切。 ・大きな都市（長野市・松本市）にいかに頑張っていただくかが重要。	・第１章重点方針にパートナーシップの観点を記載。 ・チャレンジ 800 実行チーム等を通じて地域毎の課題に取り組む。	P6
	・ごみ処理広域化について全国的な課題。全国に先陣を切って進んでほしい。	第６章のごみ処理広域化・集約化計画に方向性を記載。	
美谷島委員	・家庭系ごみの中でも何をどう減らしていくかという視点を。食品ロスは必要なファクター。	特に食品ロスとプラスチックごみの２点に焦点を当てて記載。	
	・食品ロスの削減を全国で一番取り組んでいる松本市の食品ロス削減の取組事例をもっと県内に広めていくべき。	新たな生活様式に配慮しながら引き続き県内に呼びかけを行う。	
	・食品ロス削減に向け、１人１人が何をすればいいのか計画に落とし込んで。	それぞれの施策の中に１人１人ができることを盛り込んでいく。	
	・県単位での食品ロス量がわかる方法はないか。（643 万トンではピンとこない）	・現状、県単位での推計方法はないが、１人１日ご飯茶碗１杯分を廃棄しているということを記載。 ・１人１日当たりの家庭系ごみ排出量を目安。	P26
髙木委員長	・2050 年のごみのあるべき姿の検討を。	数値では難しいが、環境省の地域循環共生圏を例に理想像を第６章で記載。	
	・食品ロスの削減について、削減に頑張っている家庭とそうでない家庭の比較、生ごみ処理機を導入し堆肥化しているスーパーとそうでないスーパーの比較。	・食品ロスの削減に頑張っている家庭の定義づけが困難かつ把握が難しい。 ・スーパーでの堆肥化実績は、事業者へ資源物の店頭回収調査を実施したが、回答が得られなかった。	

委員名	発　言　項　目　等	計画等における対応案	本文掲載箇所
浅利委員	・重点方針にパートナーシップの観点を入れたらどうか。	第１章重点方針にパートナーシップの観点を記載。	P6
	・災害廃棄物への備えは。	第５章で記載。	
中村委員	・事業系一廃を減らすためにも食品ロス削減やアピールに力を入れて。	御意見を踏まえ、食品ロス、プラスチックごみを中心に記載。	
	・資源の乏しい国なので、資源を有効活用するためリサイクルのアピールを。	第４章リサイクルに記載するとともに、チャレンジ800実行チーム等を通じて取り組む。	P68
磯貝委員	・基本目標はどうするか。	第３章に記載。	P45
髙木委員長	・資源物の店頭回収量の把握を。	別添調査結果のとおり。	
美谷島委員	・食品ロスの現状把握に事業系（食品製造）の視点を入れて。（アンケート結果より）	第２章に記載。	P30